

個別テーマによる検討の概要

第10回 航空機運航のDX推進に向けた検討会

航空局交通管制部
交通管制企画課

航空機運航のDX推進に向けた検討会

取り組みポイント

- 航空機の運航の高度化の観点から、航空交通・運航関連データを関係者間でリアルタイムに共有するため、世界各国で『情報共有基盤』を用いたシステム全体での情報管理（SWIM：System-Wide Information Management）の導入が進められている。我が国では令和3年度に基盤整備に着手したところ（～令和6年度）。
- SWIMの導入を契機とし、航空交通・運航関連データの航空分野に限らない幅広い利活用を図るための検討会を立ち上げた（令和3年9月）。
- 航空分野に限らない産学官による構成メンバーの下で、データ利活用に関する取組発表や意見交換を行い、具体的な方策の検討を進めている。

開催状況

【実績】

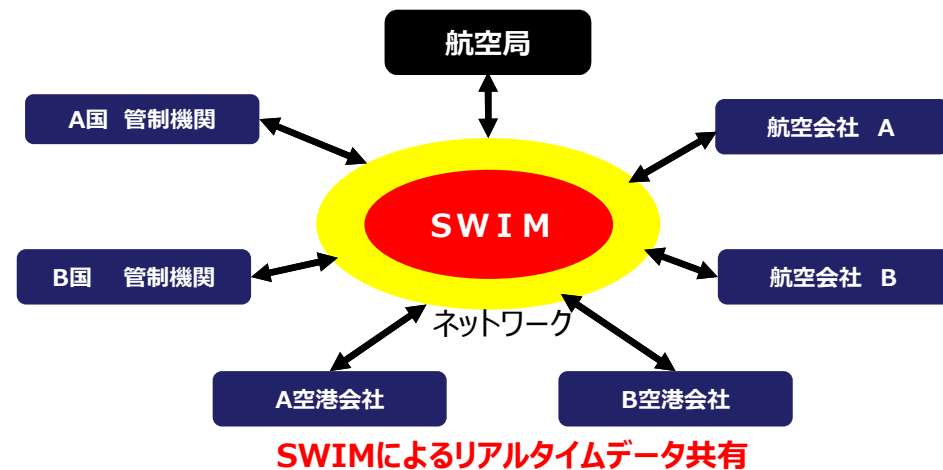
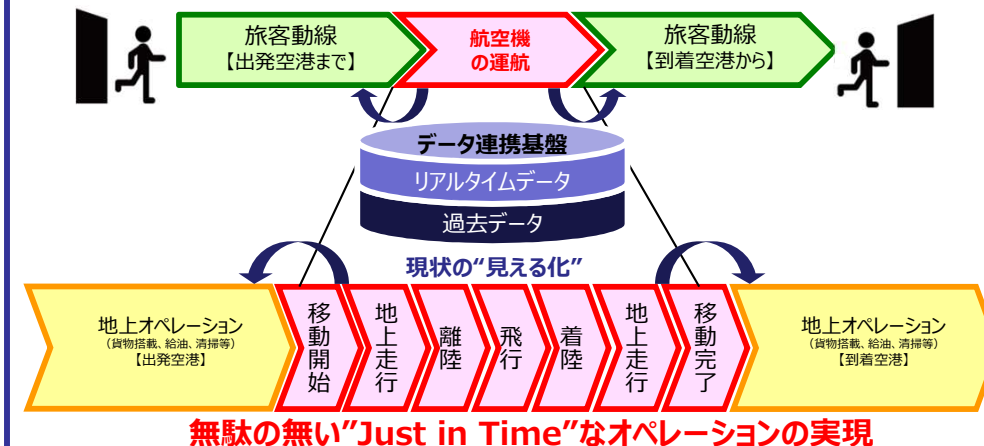
- ・第1回 R3. 9.21 検討会開催の趣旨、現状認識
- ・第2回 10.29 空港における取組発表・意見交換
- ・第3回 11. 9 航空会社における取組発表・意見交換
- ・第4回 11.19 情報利活用者・ベンダーにおける取組発表・意見交換
- ・第5回 12.15 委員による取組提案・意見交換
- ・第6回 R4. 3. 3 ご意見募集の結果報告、意見交換
- ・第7回 5.23 SWIM整備進捗、今後の取組、意見交換
- ・第8回 11.25 個別課題の検討状況報告
- ・第9回 R5. 3.22 個別課題の取組状況報告と今後の取組例
- ・第10回 R5.11.24 個別課題の取組状況報告、SWIMの進捗状況

【今後の取組】

意見・要望を踏まえ、個別テーマによる関係者間での議論を進めていく。

構成メンバー

- 【有識者】 森川 博之 東京大学 工学系研究科 教授
武市 昇 東京都立大学 システムデザイン研究科 教授
平田 輝満 茨城大学 工学部 都市システム工学科 教授
- 【空港】 成田国際空港、中部国際空港、関西エアポート、南紀白浜エアポート、全国空港事業者協会 等
- 【航空会社】 日本航空、全日本空輸、定期航空協会 等
- 【研究機関】 宇宙航空研究開発機構、電子航法研究所 等
- 【関係事業者】 NEC、Google、ナビタイムジャパン、ウェザーニューズ 等



個別テーマによる検討・議論

発足の背景

- DX 推進の現状と課題認識については、イレギュラー時の迅速な顧客対応を含む業務や二次交通への接続の効率化の必要性、空港での申請手続き等の業務のデジタル化による効率向上へ期待する声が上がっていた。
- 一方でデジタル化に限らず、航空機運航や空港運用、二次交通に関する幅広い気づきや提案もあった。

取組の方向性

検討会の議論での個別取組アイデアの中から先行的にどのように実施に繋げるかを議論し、「小さくても嬉しい事を作っていく」という考えのもと、試行、実証といったステップも経ながら、具体的な実施や取組の合意形成を行う。

議論より出てきた各種テーマやアイデアの中から、実現のための必要性や熟度が比較的高いと思われるテーマについて関係者による実務的な検討を進めるチームを作り、立場にとらわれず実現に向けた議論を進める。

個別テーマによる検討・議論

● リアルタイムな情報共有の改善

- ・「共有が必要」「共有が可能」な情報の把握
- ・各ステークホルダー間での情報共有実現に必要な手段の検討

● 申請手続きのデジタル化

- ・手続きに関するデジタル化を通じた生産性向上（省力化、ペーパーレス）
- ・現状の課題整理、具体的な効果の検証

● 旅客情報の共有可能範囲検討

- ・イレギュラー時の乗り継ぎ便や他社便への振り替え対応に寄与
- ・エアラインからの旅客情報の共有可能範囲と利用目的について整理（将来的課題）

● 主に地方空港における業務効率化・負担軽減

- ・主に地方空港における既存の業務、現状の課題、必要な効果等を共有し、課題解決へ可能性のある手法（技術、アイデア、仕組み）を提案
- ・多様なメンバーで、（費用を常に意識しながら）導入可能性について意見交換